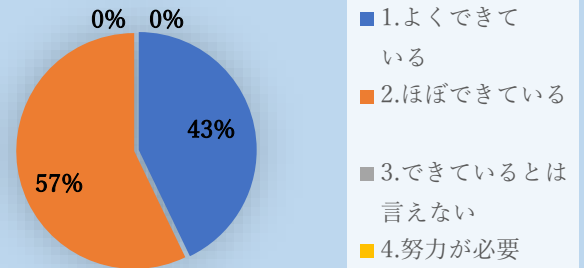


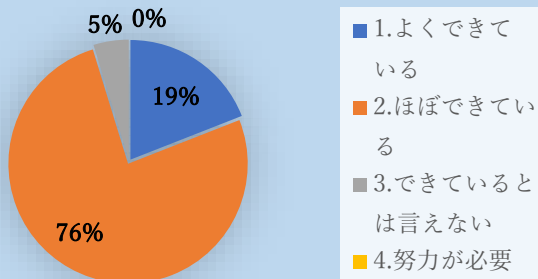
◆令和5年度4月から7月までの職員自己評価の結果について

- 1 ページ円グラフで標記しているものは、個人が考える評価です。
段階 = 4 段階で回答しています。
- 2 ページから 5 ページまでは文章での回答となります。

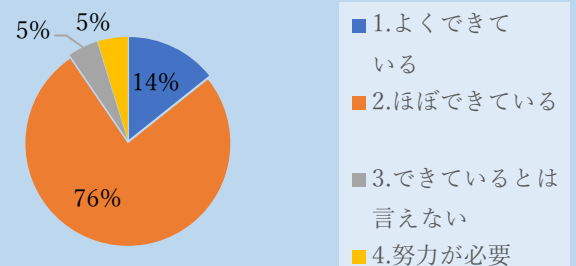
1 すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重しているか



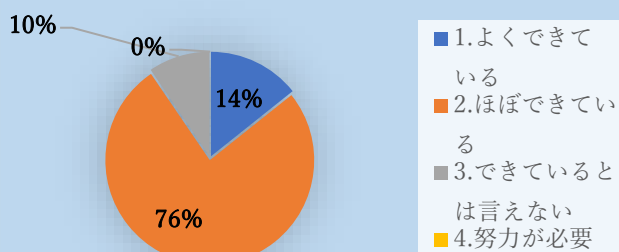
2 子どもの気持ちに寄り添っていますか



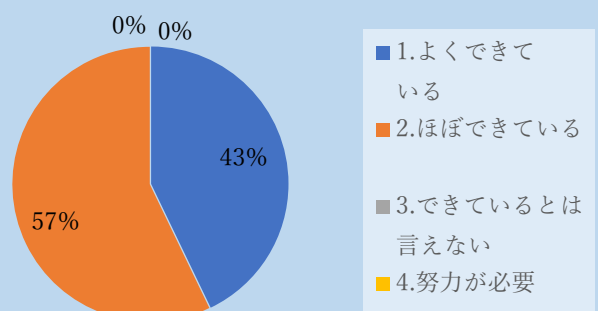
3 遊びの時に園児の遊びに対して声かけや、遊びに対しての援助などを積極的に行っていますか。



4 保護者の気持ちに寄り添えていますか



5 あなたは楽しんで保育をしていますか。



◆令和5年4月から7月までの保育者への4つのアンケート結果は以下のようになります。
0歳から年長児クラスまでの保育者の回答です。順不同で記載されています。

1, 令和5年度4月から7月までを振り返りをし、これからどんな保育者になりたいですか。

- ・穏やかに笑顔で接していけるような保育者になりたい。
- ・年齢に関わらず、子どもの気持ちを考え接することができる保育者になりたい。
- ・子どもにとって安心できる存在の保育者。
- ・子どもの遊びを発展していけるような保育者。
- ・子ども達にとって楽しいことを提供できるような保育者になりたい。
- ・良いところはたくさん褒め、指導する時は納得が出来るような話し方で伝え、メリハリのあ
る関わりをしていきたい。
- ・もっと子供に寄り添える保育者。保育者同士で声掛けをしっかり行い、情報共有をしていく。
- ・子どもの気づきに耳を傾けより興味を持ち遊びを発展させていく。
- ・子ども達に寄添いながら日々の保育を楽しんでいきたい。
- ・子ども主体の保育に変えるために、今まで自分が経験してきた保育と違い戸惑いを感じるこ
ともあるが、子ども達の気持ちを尊重し見守る保育者になりたい。
- ・子ども達の意欲を引き出し、「先生といると楽しい！」と思ってもらえるような保育者。
- ・多様性の尊重をし、子ども一人ひとりがこれからの人生、安心して生きていけるように、存
在を認めながら関わることのできる保育者になりたい。
- ・何でも手伝ったりするのではなく、子どもたちが自分から「やろう。」「できる。」という気持
ちが持てる言い方をできるようになりたい。
- ・子どもの意見に耳を傾けて気持ちを受け入れてあげられる保育者。
- ・子ども達が今何をしたいのか、何をして遊びたいのか気持ちを受け止められるようにする。
- ・子どもの小さな不安に寄添える保育者になりたい。
- ・子ども一人ひとりにしっかり寄り添い、その子に合った対応ができるようにしたい。
- ・子どもにとって安心できる存在の保育者。
- ・気持ちに余裕を持てるようになりたい。
- ・子どもの興味や関心を引き出せる保育者。
- ・先生たちとコミュニケーションをたくさんとり、過ごしやすい環境を作っていきたい。
- ・子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもがしたいことを提供してあげられる保育者。
- ・子ども達の様子やその日の状況を見ながら、スムーズに活動に入れるようにする。

2, 1のような保育者になるためにはどのようにすればよいと思いますか。

- ・子どもの様子を常に気にかけて、それぞれに合った寄り添い方をしていきたい。
- ・子ども達が何を求めているかを考えて関わっていくようにする。
- ・子どもの遊びをよく観察して、一緒に遊びながら出てきた疑問などを考えていく。
- ・楽しいことを常に考え、自分自身も子どもたちと一緒に遊びを楽しむ。
- ・否定的な言い方をせず、子どもの気持ちに寄り添いながら、言葉を掛けるようにする。
- ・子どもの気持ちになって考える。
- ・活動内容や子どもの体調面など、お互いに知ることができるように声を掛け合っていく。
- ・子どもの遊びが広がり、おもいきり楽しめるよう子どもの声をたくさん拾っていく。意識を変える。
- ・主体性の保育についてわからないことが多いので勉強していきたい。
- ・子どもの注目を手遊びなどで集めたり、子どもたちの興味・関心がどこにあるのか、何に対して「楽しい」「おもしろい」と思っているのかを理解し、探り続ける。否定をしない。認める。自分の価値観で子どもに言わない。
- ・気持ちを汲み取りながらも、自分で進んで行えるような伝え方を工夫していきたい。
- ・自分の意見だけでなく相手の意見に耳を傾けられるような関わりや気持ちの余裕を持って接しられるような心掛け、保育環境の工夫をしていきたい。
- ・後回しにせず、やれる時にすぐ終わらせる。積極的に声をかけたり、たくさん話しかけ子どもの気持ちに寄り添うようにする。
- ・子どもの小さな不安に寄り添い、安心感が与えられるように関わっていく。
- ・子ども達の表情を見逃さず、安心して甘えられるように関わっていく。
- ・常に子どもの目線に立ち一緒に遊びを楽しむ。保育内容や作業等の企画をきちんと立て、臨機応変に対応できるようにする。
- ・遊びや経験が出来るような環境設定や関わりを大切にする。
- ・様々なところに目を向ける、声を掛けながら大変なところは手伝うようにする。
- ・子どもの一人ひとりと丁寧にコミュニケーションを取っていく。子どもの声に耳を傾ける。
- ・保育者同士で声を掛け合いながらテキパキ動いていく。

3,保護者に対してどんな保育者になりたいですか。

- ・相手の気持ちを汲み取り、寄り添っていけるような保育者。
- ・不安なく声をかけてもらえる職員。
- ・子どもの成長を一緒に喜べる保育者。
- ・子どもの些細な“できた”を発信していく保育者。子育てに関する悩みに寄り添い一緒に考えていける保育者になりたい。
- ・信頼される保育者。
- ・子どもを安心して預けてもらえるような保育者になりたい。
- ・周りを見る、少しの変化に気づく。
- ・いつも笑顔で挨拶をしたい。
- ・信頼し、安心して子供を預けられると思ってもらえるような保育者。
- ・誠実な対応ができる保育者になりたい。
- ・保護者の気持ちに寄り添いながら、悩んでいることなどを言いやすいような信頼される保育者になりたい。
- ・安心して預けられるような信頼できる保育者。
- ・信頼のある保育者になりたい。
- ・保護者からの信頼をもってもらえる保育者。
- ・信頼感をもってもらい、安心して子供を預けられる保育者になりた。
- ・信頼してもらえる保育者。
- ・子どもを安心して預けてもらえる保育者。
- ・保護者の気持ちに寄添える保育者になりたい。
- ・保護者の不安な気持ちや嬉しい気持ちを共有しあい、信頼してもらえるような保育者。
- ・保護者の気持ちに寄り添いながら関わっていききたい。

4、3のような保育者になるためにはどのようにすればよいと思いますか。

- ・お迎え時や連絡帳を通してコミュニケーションをとって信頼関係を築いていく。
- ・笑顔を忘れず声掛けを行う。慣れなれしく友達のような態度はとらない。
- ・送迎時などに積極的に挨拶をする。当たり前のことを徹底し、信頼関係を築いていきたい。
- ・日常から子どもが集中している場面に気づいていけるようにする。
- ・子育てにおける正しい知識を勉強し適切なアドバイスができるようにする。
- ・子どもの姿から、その子の特性を捉え、関わり方を考えていく。
- ・明るい挨拶やコミュニケーションを行う。
- ・その日の子どもの様子を連絡帳に記入したり、迎えの際に直接伝えたりと、子どものことについて話をしていく。
- ・確認しながら日々を過ごす。
- ・保護者が安心して子供を預けられるように、一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添って保育をしていきたい。
- ・送迎時や連絡帳などで子どもの様子を積極的に伝え、気軽にコミュニケーションが取れる先生だと思ってもらえるようにする。
- ・笑顔！ハキハキとした挨拶！正しい言葉遣い。コミュニケーションを密にとる。
- ・日頃の子どもの様子を伝えながらコミュニケーションを多くとっていくようにしたい。
- ・日々の様子を伝えあい、関わり方についても伝え、不信感が生まれないようにしていく園での様子をしっかり伝え、少しでも信頼してもらえるようにする。
- ・園での子どもの様子をこまめに伝えたり、保護者の相談に乗れるようにしていく。
- ・保護者の話や悩み事などをしっかり聞き、適切にアドバイスできるようにしたい。
- ・保護者の気持ちや考えをきちんと受け止める。丁寧な言葉遣い。何を聞かれても答えられるよう、保育者間で情報交換や伝え忘れがないようにする。
- ・こまめに連絡帳や送迎時に子どもの様子を伝え、信頼関係を築く。
- ・一人ひとりの子どもにはもちろん保護者にも日々気にかけるように会話を大切にしたい。
- ・保護者とこまめなコミュニケーションを取り、相談しやすい環境をつくっていく。
- ・一人ひとりの保護者に対し丁寧に接し、子どもの様子を伝え成長する嬉しさを共感したり悩みなどを親身に聞いたりする。

- ◆ 急速に変化している時代に、今の子どもたちは対応していかなければなりません。これからの子どもたちは主体的に取り組み、非認知能力を得ていくことが大切とされています。また、多様性の今、様々なことをアップグレードしていく必要があります。柔軟に対応できるような心を持ち合わせていきたいですね。